

# 小型底びき網漁業の資源管理に関する研究 2

## (魚捕り簡易着脱方式による網目拡大の普及)

(複合的資源管理型漁業促進対策事業)

藤川裕司

### 1 研究目的

小型底びき網 1 種の魚捕りの網目拡大を推進するために、平成 8 年度に開発した魚捕りの簡易着脱方式による網目拡大<sup>1・2)</sup>の普及を、平成 10 年度に引き続き行った。

### 2 研究方法

平成 11 年 6 月に、本県小底 1 種 63 隻にアンケートを送付し、簡易着脱方式使用希望者には、魚捕り部の 9 節の網地およびシャックルを無償で配布すると伝えたところ 7 隻が希望した。後日、これら 7 隻の希望者に対して説明会を開き、簡易着脱漁具の有効な使用法および作成方法について説明した。その後、簡易着脱漁具を使用した漁船から聞き取り調査を行った。

### 3 研究結果と考察

7 隻のうち、簡易着脱方式により 9 節の拡大網を使用したのは 3 隻であった。残りの 4 隻は、魚捕りの真尻の部分に 9 節の拡大網を直接取り付けた。9 節の拡大網の使用日数は、1~5 日が 3 隻、10~20 日が 3 隻、周年使用が 1 隻であった。

特徴的なのは、9 節の魚捕りを使うことにより、漁具のバランスを崩した船が認められたことである。船長によると、9 節拡大網の曳網時に生じる水抵抗の減少の影響を受け、そのため漁具全体のバランスを崩したということであった。このことについては、今後検討する必要がある。

9 節の拡大網目を使った船長の感想は「総じて、ゴミや泥が良く抜けるので曳網し易く、しかもゴミが少ないので選別が楽である」であった。一方、短所は、ニギスや小型アナゴが抜けるであった。ただし、ニギスが網目から抜けることに関しては、本種の分布水深が特定されることから、ニギスを狙うときは、簡易着脱方式により従来の 12 節の魚捕りに交換すれば問題はないと考えられる。

平成 10~11 年を通じて、9 節の拡大網を試験的に使った船は延べ 14 隻であった。また、この内 4 隻は 2 年連続使用した。これら漁業者からの聞き取りにより、総じて本方式の実用上の問題は認められなかった。本方式による網目拡大の普及が遅いのは、簡易着脱漁具を作るのに労力を要する、12 節と 9 節の魚捕りを交換するのが煩わしい、と漁業者が考えているためと推測された。

本方式による網目の拡大は、普及方法を工夫することにより使用者が拡大する可能性はあると考えられるので、今後、普及方法を検討する必要がある。

### 4 文献

- 1) 藤川裕司・田中伸和・沖野 晃：資源管理型漁業推進総合対策事業．平成 8 年度島根県水産試験場事業報告，46-50 (1998)．
- 2) 藤川裕司：小型底曳網の魚捕り簡易着脱方式による網目の拡大．日本海区水産試験研究連絡ニュース，NO.384，4-5(1998)．